

(以下は 2017 年 11 月 6 日に行われた JAWW (日本女性監視機構) による「CSW62 にむけての勉強会」での報告用に作成されたものです。当日出張のためご参加いただけなかったのですが、代読用スクリプトとして作成いただきました。)

## 政府代表団ユース代表としての学び

CSW61 政府代表団ユース代表 船引はるか

みなさま、こんばんは。CSW61 にて、政府代表団ユース代表を務めました船引はるか  
と申します。本日は勉強会に出席できず大変残念ですが、CSW61 での学びを少しでも  
皆様と共有できればと思います。

簡単に自己紹介を致しますと、私は当時東京大学の 4 年生で、国際関係論を専攻してお  
りました。戦争などの国際社会における現象の理論を中心に学んでいましたが、国際関  
係の実務的な面も学びたいと思い、大学最後の年に、国連人口基金 (UNFPA) というジ  
ェンダー課題も大きく扱う機関でインターンをしていました。インターン生として働く  
中で CSW について知り、日本パシイワのご支援をいただき、参加につながりました。  
現在は大学を卒業し、人事系のコンサルティング会社に勤めており、女性の働き方やダ  
イバーシティの推進等、CSW と関連の強いテーマに関わることも多々あります。

さて、本題に入りますと、私が務めさせていただいたユース代表というのは CSW61 か  
ら始まった試みで、ジェンダー課題に関する若者の意見をもっと積極的に取り入れてい  
きたいという UN Women の思いが形になったものです。ユース代表としての仕事は、  
CSW61 ではすべてユースフォーラムに関わることでした。まず一つ目はユースフォー  
ラムに出席し、国連代表部と外務省に報告書を提出すること。二つ目は、ユースフォー  
ラムにおいて積極的に発言すること、そして最後に政府による NGO ブリーフィングの  
場でユースフォーラムについて簡潔に報告することでした。他にもユース関連のサイド  
イベントに参加し、報告書を提出することも政府が検討されていたようですが、去年は  
実施しませんでした。

ユースフォーラムとは本会議が始まる前の週末二日間にわたって開催される若者によ  
るフォーラムです。1000 人近くの若者が集結し、ジェンダー格差に関する優先課題を  
議論します。具体的な内容としては、UN Women 事務局長をはじめとするハイレベルの  
方々によるスピーチ、アクティビストによるパネルディスカッション、参加者が少人数

に分かれた議論やナレッジシェアリングなどでした。朝から晩まで基本的にはひとつの大きな部屋にいるため、ネットワーキングの機会でもありました。私自身も、プランインターナショナルに所属するカナダの学生や、政策について議員と頻りに議論するアメリカ人の学生など、活動的な同年代と会うことができました。パネリストや参加者の話を通して、世界に変革をもたらすためには若い世代が自ら働きかけていく必要性、そして世代間で協力していく重要性を痛感しました。女性の起業家や耳が聞こえない障害をもった方、トランスジェンダーの方がパネリストとして登壇するのを拝見するとジェンダー平等に近づくのに必要な次のステップは、傍観者が当事意識をもつことであると感じました。女性の割合が2割以下である大学に通っていた私は、仕事場においても性差別が存在し、例えば管理職における女性の割合が極めて低い状況を受け入れ、諦めに近い感情を抱いていましたが、それを普通のこととして認識することに疑問を抱くようになりました。もちろん変革をリードする人材も必要ですが、置かれている状況に対し、「何かがおかしい」と感じ、その感情を周囲とシェアする、普通の生活を送る人によるこの一步一步の重要性も認識しました。

ユース代表としての大きな学びでしたのは、まず政府代表団の方々、講師の方と直接お話しできたことです。ユースフォーラムで強調されていた世代間の協力への大きな一歩であると考えています。また、NGO と外務省との接点の一つとしてもユース枠には意義があり、政府、NGO、ユース全体の関わりをより大きく開くドアになりうるのではないかと思います。

CSW62 に向けたユース代表制度の一番の課題は、若者がより意思決定に関わることのできるよう形式的な面だけではなく、本質的な面を強化していくことだと感じています。昨年度は直前に設立された枠であったこともあり、政府の CSW61 準備、例えば日本政府としてどのような事項を優先度高く推すのか等の意思決定に関わることはできませんでした。より意思決定に近づき、若者として感じていることを伝えられれば、さらに有意義な制度となると思うので、働きかけていっていただきたく思います。私もお協力できる場所があれば、ぜひしていきたいです。

それでは、本日は皆様と直接お話しできず残念ですが、またの機会にお目にかかれればと思います。ご静聴ありがとうございました。